

剋北條殿相具童形參給、則將軍家○源賴朝出御有御加冠之儀、武州千葉介等取脂燭候、左右名字號太郎賴時、

〔親長卿記〕文明十年四月廿一日、言國朝臣息改名事、予可注給之由、自先日比申之、無沙汰催促之間、今日注付之、實言定言也、實言通大臣之名字、定言可然之由仰了、其分治定、

〔親長卿記〕延德四年二月廿九日、今日聞鷹司前關白政平若公有首服事、御名字兼教云々、後聞改陽名兼輔

明○近衛家御庶流有此御名字、殊准大臣也、誰人勘申哉不審、殊一代將軍御名字、○足利人々不付之、旁義教

無故實事也、三月九日、前藤中納言云、御方御所御名字如何、兼教、先日子細予示之、返答云、申此趣之由、自中御門大納言許申之、若公禁色昇殿一級上卿也仍被勘改云々、

〔相州兵亂記〕公方管領不和事

永享十年六月、公方○足利持氏若公天王丸殿御元服アルベシトテ、御祝儀ノ用意善盡シ美盡セリ、

管領○上杉憲實又諫言ヲ以テ被申ケルハ、代々ノ公方ノ御元服アリシ時、皆京公方へ御使有、一字御

申下サル、先規ニマカセ御使可有、某ガ弟ニテ候上杉三郎重方ヲ罷ノボセサムラハント被申上

ケレドモ、此條會テ御承引ナクシテ、御名字ヲモ則自ラ義久ト御名乘被申テ、彼御祝儀トシテ國

人ドモヲ、名字ヲ指テ被召ケル、

〔甲陽軍鑑十下〕信虎牢人の次年、駿府にて男子一人持て候、○中武田の上野守と名乘當年廿五歲

なる、此上野守十六歳の時まふけたる子、我等名を付候に、信玄○幼名勝千代にあやかるとて、

勝千代と付候、

〔鷲峯文集二十三〕明英說

乙巳仲冬吉辰、勿齋藤君嫡子義兒、求名於余、以其漸成長也、君家世隨國俗、以明字爲通稱、故擇翻切善者三箇、以應之、就中明英定爲其名、